



西王母：  
天門で迎える神(<特集>中国文化の深層,中江彬教授  
退職記念号)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 重信, あゆみ メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24729/00004493">https://doi.org/10.24729/00004493</a>

# 西王母 —天門で迎える神—

重 信 あゆみ

## はじめに

本稿は2006年6月6日に和泉市市民プラザにおいて発表した内容の一部修正を加えたものである。

西王母は現在では道教の神として知られ、中国では最も知られた神の一人であり、古代中国から信仰の対象とされてきた。また、現在においては物語の中の登場人物として中国では有名である女媧は、古代中国においては高い地位に位置する神として認識されていた痕跡が見受けられる。この二人の神はいずれも『山海経』や『淮南子』という戦国時代から前漢時代に著された書物に登場する同時代の神であり<sup>1</sup>、高い地位に位置する神であった。しかし、西王母は道教の神として取り入れられ女仙を統括する地位を与えられたが、女媧は表舞台から消えていく。同時代に存在し類似した役割をもつこれら二人の神に対する認識が変化した原因を探るためにも、二人の神が同じ空間に存在している唯一の資料である画像石墓に描かれている西王母と女媧の画像の整理と分析が必要であると考えた。<sup>2</sup> 本稿においては画像石の整理、分析を行ったのみで、画像磚に対する整理、分析は行うことができなかった。

## 1. 画像石における西王母と女媧

中国の漢代に多く築造された画像石墓の空間はそれ自体「天上の世界であった」と考えられる。その天界にどのような描かれそしてどのように配置されているかを探ることにより当時の人々の神に対する認識を知ることができるのではないだろうか。本稿ではとくに西王母と女媧について考察をした。

西王母と女媧の画像は中国全土に広がっている。しかし、地域ごとにその配置や描かれ方は特徴がある。まずは地域ごとにその特徴を探っていくことにする。

## ① 河南画像石

	前漢	後漢	備考 <sup>5</sup>
女媧、伏羲	1 (図1)	1	人首蛇身、持仙草、高媒神
西王母、東王公		1 (図2)	戴冠、三青鳥、玉兔
常羲、羲和	1 (図3)	2	人首蛇身、双手举日月
日神、月神		1 (図4)	人首蛇身

\* 数字の単位は「個」

河南省唐河針織廠墓は前漢の画像石であるという点においても重要であり、画像石墓によって作り出された天界の早い時期の様子を伝えている。この画像石墓において女媧は北主室北壁西端に配置され、女媧と伏羲の間には神がいる。この神の役割については詳しいことはわからないが、解説によると高媒神である。女媧、伏羲は墓の奥に存在する主室に描かれていることなどから考えて天界において高い地位に在ったのではないかと推測される。(図1) この画像石墓には西王母は存在せず、また前漢の画像石墓に西王母は管見のところ見あたらない。

注目すべきは女媧と常羲とが同じ人首蛇身をしていることである。また常羲は両手で月を掲げているが(図3)、これは四川省の画像石の女媧像と似ている(図5)。また女媧の「媧」と常羲の「羲」は古代においては通じていたようである。これらのことから女媧と常羲は元来一体のものではなかったのではないだろうか。

## ② 陝西省、山西省

	墓門立柱	墓門楣	その他	時代	備考
女媧、伏羲	5 (図6)	2 (図7)	1 (図8) (墓室北壁 横額)	後 漢	規矩、举日月、靈芝 仙草、人首蛇身、魚
西王母、東王公	17 (図9)	3 (図10)	4 (図11) (墓前室西 壁・南壁、 前室後壁)		坐于神仙仙樹、九尾 狐、羽人、玉兔、牛 首、鷄首、戴勝
人身蛇尾の神	1 (図12)				

\* 数字の単位は「個」

注目すべきは靖辺秦山墓門左右立柱である（図13）。この画像石では女媧、伏羲と西王母、東王公がともに描かれているが画像の大きさから考えても主要な部分は西王母と東王公であるように思われる。つまり、西王母と東王公が画像石墓が描き出している世界での地位が女媧、伏羲よりも高くなった証拠といえるのではないだろうか。また綏徳楊孟元墓前室後壁組合画像では西王母と東王公の上には日月が描かれている（図11）。この画像石のように横額や門楣の両端には日月が描かれていることが多い。しかし、その日月の位置に女媧、伏羲が描かれているものがある。これは女媧、伏羲自体が日月を表していると考えられる（図8）。

### ③ 江蘇省、安徽省、浙江省

	祠堂西(東)壁	その他	時代	備考
女媧、伏羲		7 (前室頂蓋、墓室柱など)(図14)	後漢	羽、人首蛇身、人首蛇軀交纏差、戴進賢冠、梳髻簪飾、双手拳日輪
西王母、東王公	4 (図15)	6 (墓門など)(図16)		坐于楼上、憑几、坐于台上、羽、戴籠冠、仙草

\* 数字の単位は「個」

この地域の画像石で注目すべきものは徐州沛縣栖山から出土したものである（図17）。この画像石は解説によると樓閣上に座っている西王母に人身蛇尾、馬首人身、鳥首人身のものたちが礼拝している画面である。<sup>8</sup> この人首蛇身のものが誰であるかということとはふれられていないが、江蘇省、安徽省、浙江省における他の画像石において人首蛇身の姿をもって描かれるものは伏羲か女媧であり、やはりここでも女媧か伏羲ではないだろうか。また次に注目すべき画像石は安徽省宿縣褚蘭鎮墓山孜出土のものである（図14）。この画像石は前室の頂蓋部分に描かれ蓮とともに描かれている。蓮は天を象徴するものであり、その回りを飛ぶように描かれ、女媧と伏羲もまた天と関係があった可能性がある。またこの地域の西王母、東王公像の特徴の一つとして注目すべきものは仙草である。この仙草は侍者らしきものが仙草を持ち、それが西王母、東王公の頭上に覆い被さっている（図15）。まるで陝西省の華蓋のようである（図9）。

## ④ 山東省

	門（門 楣を含 む）	石室屋 頂	後壁	祠西 （東）壁	その他 四周辺 欄	時代	備考
女媧、 伏羲	5 （図18）	3 （図19）	1 （図20）	2 （図21）	9 （図22）	後 漢	規矩、神人、戴 籠冠、蛇尾相交、 肩生翼、日月輪、 人首蛇身
西王母、 東王公	6 （図23）			6 （図24）	7 （図25）		羽、戴勝、戴山 形冠、手執羽状 物
人首蛇 身	1 （図26）				2 （図27）		戴勝

\* 数字の単位は「個」

		時代	備考
女媧、伏羲	12（図28）	後 漢	人首蛇身、高媒神、蛇尾相交
西王母、東王公	25（図29）		端座于几前、戴冠、坐于台上、 戴勝、華蓋、肩生双翼
常羲、羲和	1（図30）		人面獸身長尾、双手拳太陽

\* 数字の単位は「個」

山東省は画像石が数多く発見されている地域であり西王母、女媧ともに描かれている画像石も17個と他の地域と比較しても圧倒的な数である。しかし、その多くが後漢晩期のものであり、画像石における構図も比較的安定してきたと考えられる。

この地域の画像石で注目すべきものの一つは孝堂山石祠西壁画像石（図31）である。これは後漢の章帝（78～88年）のころのものとされている。この画像石では女媧と西王母がともにひとつの画面に描かれ、女媧は西王母よりも高い場所に描かれている。また、二つ目は武梁祠西壁画像石である（図21）。この画像石墓は後漢桓帝のころ（151年ころ）とされている。この西壁の画像石においても孝堂山石祠西壁画像石と同様に西王母と女媧が一つの画面で描かれているのであるが、女媧は伏羲とともに古代の帝王と同じ層に配列され、西王母よりも一段低い。この二つの画像石を比較すると

時代とともに西王母と女媧に対する認識の変化が窺えるのではないだろうか。

次に注目すべき画像石墓は沂南漢墓（後漢晩期）である（図23）。この画像石墓に墓門に伏羲、女媧と西王母がともに同じ画像石に刻まれている。この画像石においては伏羲、女媧は神人を間にはさみ西王母よりも高い位置に描かれている。この伏羲、神人、女媧という構図は河南省から出土している前漢時代に属する河南省唐河針織廠墓の画像石にも見えることから考えて、沂南漢墓の墓門に描かれる構図は古い時代に時代に属すると考えられる（図1）。後漢晩期においてはこの神人に代わって東王公または西王母が伏羲、女媧の間に描かれる例も多い。この場合、伏羲、女媧は西王母（または東王公）の侍従のような形で描かれている。このような構図は山東省では14個あり、伏羲、西王母（または東王公）、女媧という組み合わせが固定化しつつあったのではないかと考えられる。とくに注目すべきは1970年済寧市兪屯鎮城南張出土画像石（図32）、1959年鄒城市郭里郷黄路屯村出土画像石（図28）、1990年棗莊市山亭区馮卯郷鷗山谷村出土（図33）などである。これらの画像石においては東王公が伏羲、女媧とともに描かれ、これは陝西省、山西省の画像石には見られなかった構図である。

#### ⑤ 四川省

	石棺後档	石棺側面	時代	備考
女媧、伏羲	6 (図34)	2 (図35)	後漢	人首蛇身、手捧日月、手執規矩、執靈芝、人首鳥身
西王母、東王公		5 (図36)		端坐、戴勝、龍虎座

\* 数字の単位は「個」

『中国画像石全集』に掲載されている四川省の画像石の中で西王母と女媧が同じ空間内に描かれている例は合江四号石棺のみである（図37、図38）。この画像石棺において西王母は天門とともに描かれ、車をむかえているかのようである。また女媧、伏羲は後档部分に描かれ、天門の中に存在するかのようである。四川省の画像石における特徴の一つとして西王母が単独で描かれる場合が多いということである。『山海経』や『淮南子』などの西王母の記載がある文献資料では西王母は単独で表され、四川省における西王母像は古い形であると思われる。また、西王母が龍虎座とともに描かれる点も四川省西王母像の特徴のひとつである（図39）。

『中国画像石全集』に基づき西王母、女媧が描かれている画像石を地域的に分類した。その結果、文献上では全く関係のない西王母、女媧は画像石資料ではともに描かれる場合が存在する。画像石資料によると、前漢時代には西王母が描かれている画像石は管見のところ見当たらないが、女媧が描かれている画像石は存在する。そのことから考えても女媧のほうが古い部類に属し、また元来は別々に描かれていたと考えられる。しかし、時代が下がるとともに両者はひとつの画面に描かれるようになり、女媧、伏羲は西王母（または東王公）の侍従のように表されるようになったと考えられる。このことから考えても西王母と女媧に全く関係がなかったとするには疑問が残るのである。

## おわりに

河南省における前漢時代の画像石墓が古い部類に属する。この画像石においては女媧は墓の奥のほうに描かれており女媧が画像石墓の中に作りだされた天界においては高い地位にあったと考えられる。前漢初期に描かれた馬王堆帛画においても日月の間に位置している神は女媧であると考えられることから連続性が見受けられる（図40）。また、四川省の画像石において女媧、伏羲の画像が頭側に位置していることから四川省などの楚文化圏においては女媧が高い地位にあったという名残がある。しかし、陝西省の画像石からもわかるように女媧と伏羲は本来は日月が描かれる位置に描かれ、女媧、伏羲が日月を表している。また、女媧と伏羲の間に神が描かれ、明らかに女媧、伏羲よりも地位が高い。また、その神はしだいに西王母や東王公へと変化していく。これらのことから西王母の地位がしだいに高くなっていることが推測できるのではないだろうか。しかし、女媧は西王母とは対照的に古代の帝王とともに配置される画像石も出現するのである。

西王母は墓門に描かれる傾向があるようである。それは『真詰』などの記述と合致し、まさに天門で迎える神として認識されていたと考えられる。また、沂南画像石からもわかるように本来は女媧、伏羲よりも低い地位にあったと考えられる。しかし、上述したように女媧と伏羲を侍神とする画像石が現れるなどその地位はしだいに高くなっていく。

西王母と女媧は文献上では全く関係のない神である。しかし、画像石の画像から分析すると全く関係がないというには疑問が残るのである。

## (参考文献)

- ・ 中国画像石全集編輯委員会編『中国画像石全集』1～7巻（山東美術出版社、河南美術出版社 2000年）
- ・ 李 著『論漢代芸術中の西王母図像』（湖南教育出版社 2000年）
- ・ 小南一郎『西王母と七夕伝承』（平凡社 1991年）
- ・ 林巳奈夫『漢代の神々』第5章（臨川書店 1989年）

## 註

1 『山海経』や『淮南子』における西王母、女媧の記載は次のようなものである。

## ① 西王母の記載

『山海経』西山経

又西三百五十里、曰玉山、是西王母所居也。西王母其状如人、豹尾虎齒而善嘯、蓬髮戴勝、是司天之厲及五殘。

『山海経』海内西経

西王母梯几而戴勝杖、其南有三青鳥、爲西王母取食。在昆侖虛北。

『山海経』大荒西経

西海之南、流沙之濱、赤水之後、黒水之前、有大山、名曰昆侖之丘。有神、人面虎身、有文有尾、皆白、處之。其下有弱水之淵環之、其外有炎火之山、投者輒然。有人、戴勝、虎齒、有豹尾、穴處、名曰西王母。此山萬物盡有。

『淮南子』地形訓

西王母在流沙之瀕。

『淮南子』覽冥訓

西姥折勝。黃神嘯吟（高誘註；西王母折其頭上戴勝。爲時無法度、黃帝之神、傷道之衰。故嘯吟而長嘆也

譬若羿請不死之藥西王母。恒娥 以奔月。

## ② 女媧の記載

『山海経』大荒西経

有神十人、名曰女媧之腸、化爲神、處栗廣之野、橫道而處

『淮南子』覽冥訓

往古之時、四極廢。九州裂。天不兼覆。地不周載。火熾炎而不滅。水浩洋而不息。猛獸食顛民。鷲鳥攫老若。於是女媧鍊五色石。以補蒼天。斷鼈足。以立四極。

『淮南子』說林訓



黄帝生陰陽。上駢生耳目。桑林生臂手。此女媧所以七十化也。

- 2 本稿における画像石は中国画像石全集編輯委員会編『中国画像石全集』1～7巻（山東美術出版社、河南美術出版社 2000年）から引用した。
- 3 画像石における西王母の分析は李淞著『論漢代芸術中的西王母図像』（湖南教育出版社 2000年）が詳しいので参照されたい。また小南一郎氏が『西王母と七夕伝承』（平凡社 1991年）273頁で西王母の図像を分類している。しかし、本稿においては西王母、女媧が画像石においてどのように配置されているのかを分析し、西王母と女媧の認識の変化を探ろうとしたものである。
- 4 林巳奈夫『石に刻まれた世界 画像石が語る古代中国の生活と思想』（東方書店 1995年）16頁
- 5 中国画像石全集編輯委員会編『中国画像石全集』1～7巻の図版説明に基づきそれぞれの神の特徴や身につけているものなどをまとめた。
- 6 前掲 6巻図版説明7頁
- 7 『聞一多全集』1（三聯書店1982年）59～60頁
- 8 前掲 4巻 図版説明 2頁
- 9 沂南漢墓については林巳奈夫『漢代の神々』第5章（臨川書店1989年）を参照されたい。
- 10 『中国画像石全集』1巻の解説（図版説明59頁）によると「力士」となっているが、林巳奈夫『漢代の神々』第5章136頁の説明では「帝」であり「高祿」であるとし、「大人」と呼ぶとしている。
- 11 前掲2巻の図版説明33頁においては東王公の両側にいる人首蛇身のものは蛇尾仙人となっているものもあるが、1990年棗莊市山亭区馮卯郷鷓山谷村出土画像石の解説（図版説明50頁）では伏羲、女媧としており、他の蛇尾仙人もまた伏羲、女媧であると考えられる。
- 12 『真詰』巻5  
昔漢初、有四五小兒。路上書地戲。一兒歌曰。著青裙入天門、揖金母、拜木公。時人、莫知之、惟張子房知之。乃往拜之曰此乃東王公之童也。所謂金母者西王母也。木公者東王公也。仙人拜王公揖金母。

## 図版説明<sup>1</sup>

- 図1 1972年河南省唐河針織廠墓出土（前漢、6巻図版説明7頁）
- 図2 1935年河南省南陽宛城区熊營出土（後漢、6巻図版説明57頁）
- 図3 1978年河南省唐河湖陽出土（前漢、6巻図版説明11頁）
- 図4 1988年河南省南陽臥龍区麒麟崗漢墓出土（後漢、6巻図版説明48頁）
- 図5 1974年四川省郫縣新勝鄉竹瓦鋪出土（後漢、7巻図版説明40頁）
- 図6 1981年陝西省米脂縣官莊出土（後漢、5巻図版説明7頁）
- 図7 1977年陝西省綏德縣出土（後漢、5巻図版説明39頁）
- 図8 1992年陝西省橫山縣黨岔鄉孫家園子回収（後漢、5巻図版説明65頁）
- 図9 1995年陝西省榆林市魚河鄉鄭家溝徵集（後漢、5巻図版説明6頁）
- 図10 1955年陝西省綏德縣徵集（後漢、5巻図版説明40頁）
- 図11 1982年陝西省綏德縣蘇家徵集（後漢、5巻図版説明23頁）
- 図12 1984年陝西省綏德縣出土（後漢、5巻図版説明45頁）
- 図13 1992年陝西省靖辺寨山村出土（後漢、5巻図版説明66頁）
- 図14 1956年安徽省宿縣褚蘭鎮墓山孜出土（後漢、4巻図版説明52頁）
- 図15 1991年安徽省宿縣褚蘭鎮宝光寺出土（174年、4巻図版説明57頁）
- 図16 淮北市博物館蔵（後漢、4巻図版説明64頁）
- 図17 1977年徐州沛縣栖山出土（後漢早期、4巻図版説明2頁）
- 図18 1932年由山東省平邑鎮八埠頂遷至平邑鎮小学内（86年、1巻図版説明2頁）
- 図19 1786年山東省嘉祥縣武宅山村北出土（186年頃、1巻図版説明23頁）
- 図20 1786年山東省嘉祥縣武宅山村北出土（148年頃、1巻図版説明26頁）
- 図21 1786年山東省嘉祥縣武宅山村北出土（151年頃、1巻図版説明16頁）
- 図22 1972年山東省臨沂市白莊出土（後漢、1巻8頁）
- 図23 1954年山東省沂南縣北寨村出土（後漢、1巻59頁）
- 図24 1786年山東省嘉祥縣武宅山村出土（後漢、1巻24頁）
- 図25 1972年山東省臨沂市白莊出土（後漢、3巻5頁）
- 図26 1972年山東省新泰市西柳村出土（後漢、3巻73頁）
- 図27 1985年山東省莒縣沈劉莊出土（後漢、3巻40頁）
- 図28 1959年山東省鄒城市郭里鄉黄路屯村出土（後漢中期、2巻29頁）
- 図29 微山縣兩城鎮出土（後漢中、晚期、2巻13頁）
- 図30 1990年山東省鄒城市郭里鄉高李村出土（後漢晚期、2巻29頁）
- 図31 山東省長清縣孝里鎮孝里鋪村南孝堂山上（76～88年、1巻23頁）

- 図32 1970年済寧市喻屯鎮城南張出土画像石（後漢、2巻8頁）
- 図33 1990年棗莊市山亭区馮卯鄉鷓鴣峪村出土（後漢晚期、2巻図版説明134頁）
- 図34 1986年四川省簡陽董家埂郷深洞村鬼頭山崖墓出土（後漢、7巻図版説明33頁）
- 図35 1988年四川省内江白馬鎮関升店崖墓出土（後漢、7巻図版説明47頁）
- 図36 1969年四川省榮経城郊出土（後漢、7巻図版説明36頁）
- 図37 1994年四川省合江張家溝二号墓出土（後漢、7巻図版説明146頁）
- 図38 1994年四川省合江張家溝二号墓出土（後漢、7巻図版説明144頁）
- 図39 1986年四川省南溪城郊長順坡出土（後漢、7巻図版説明143頁）
- 図40 馬王堆帛画（前漢、1号墓）

- 1 画像石の図版はすべて中国画像石全集編輯委員会編『中国画像石全集』1～7巻から引用したものであり、巻数、頁は『中国画像石全集』の巻数、頁である。

図版

図 1



女媧 高媒神 伏羲

図 2

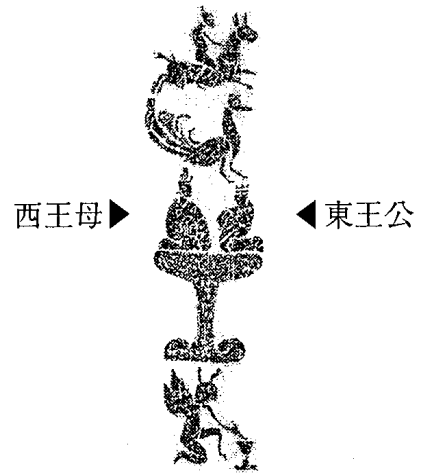


図 3

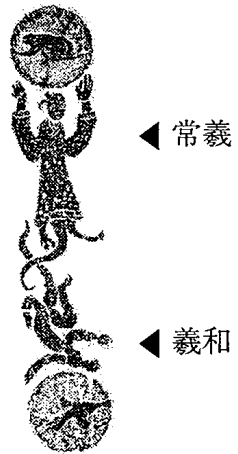


図 4

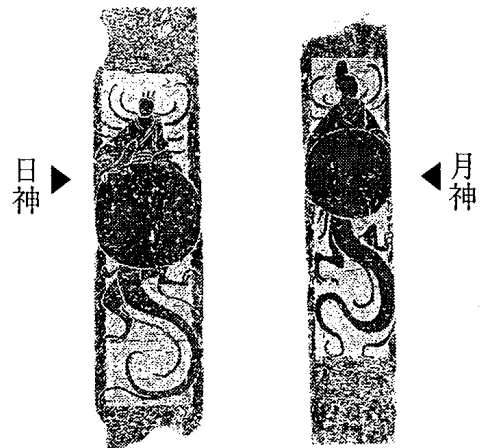


図 5

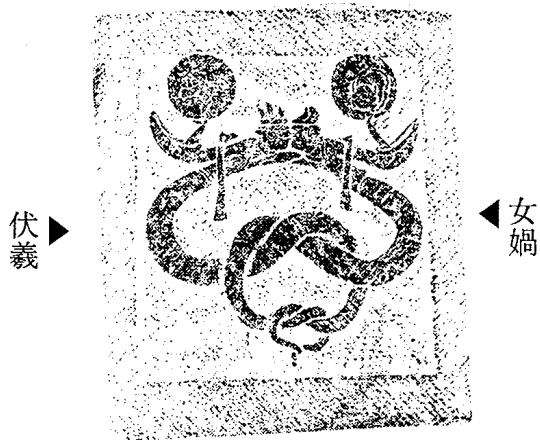


図 6



图 7



图 8

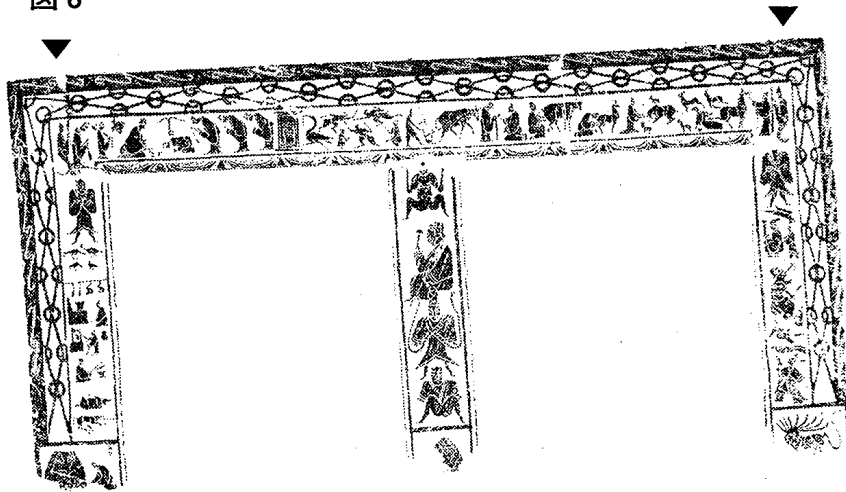
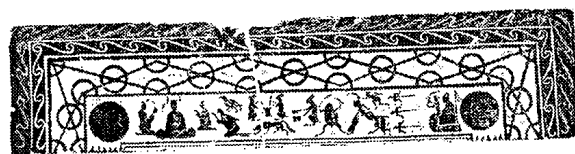


图 9

西王母 東王公



图 10



西王母

図11

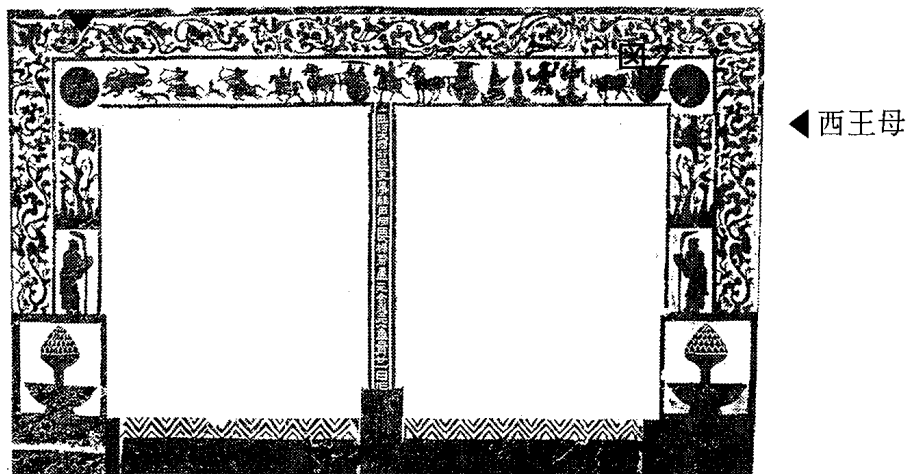


図13

伏羲 西王母 東王公 女媧

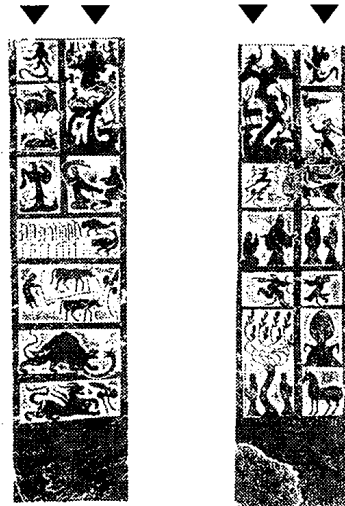
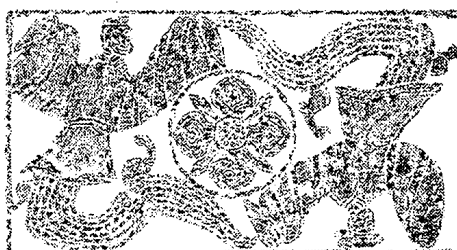


図12



図14

伏羲



女媧

图15

西王母

东王公

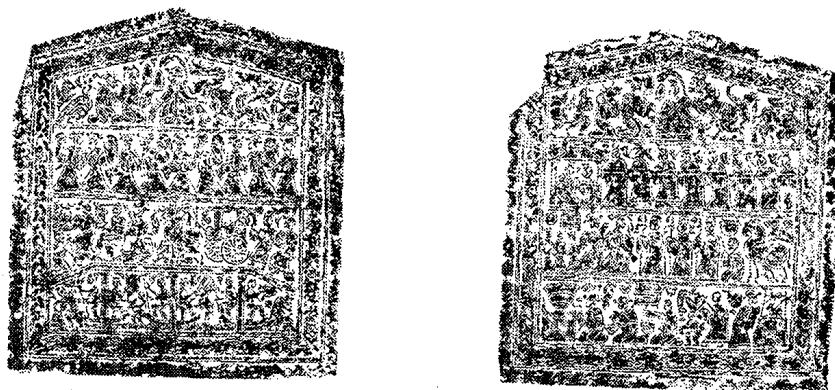


图16

东王公

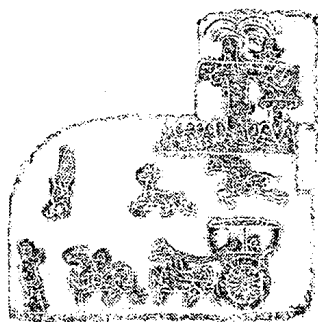


图17

西王母

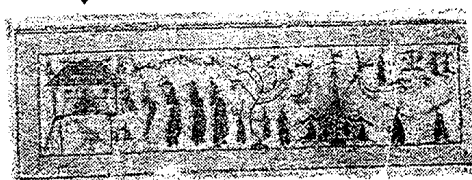


图18 伏羲·女娲

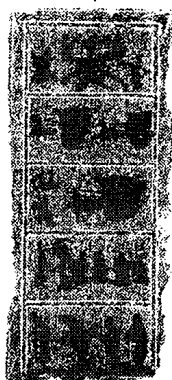


図19

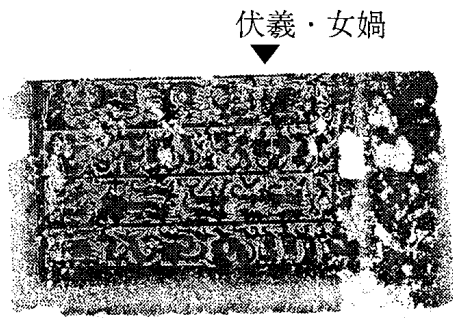


図20

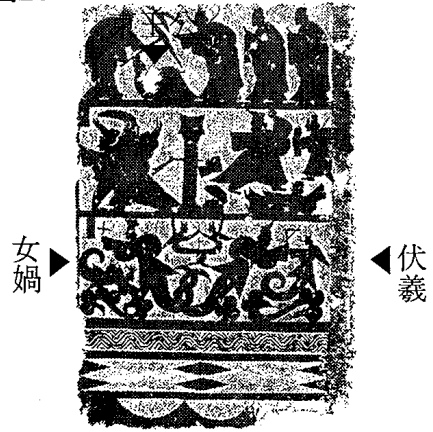


図21

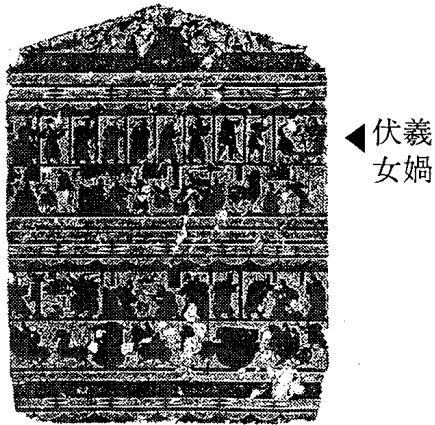


図22



図23

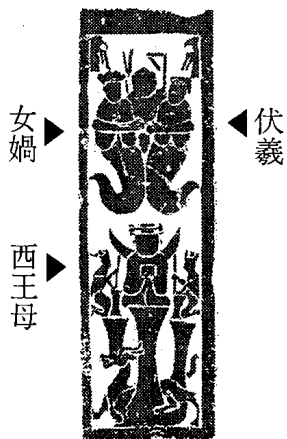


図24

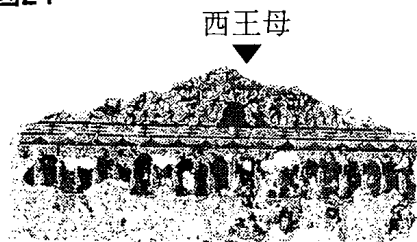


図25





图26



图27



伏羲?

图28

东王母



伏羲

女娲

图29

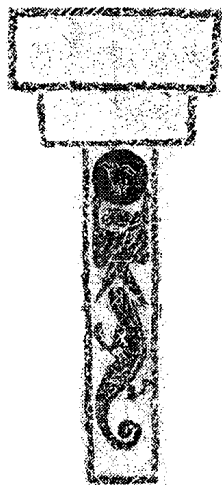
西王母



伏羲

女娲

图30



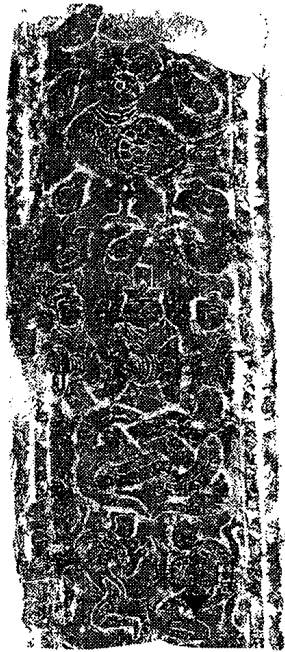
羲和

图31

女娲



図32



東王公と伏羲・女媧

図33

東王公と伏羲・女媧

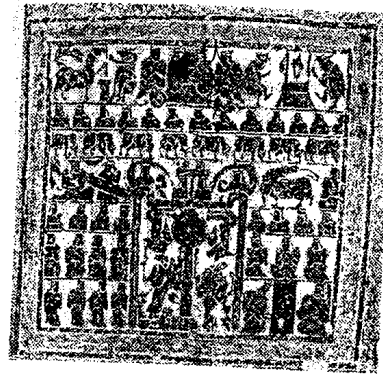


図34

女媧

伏羲

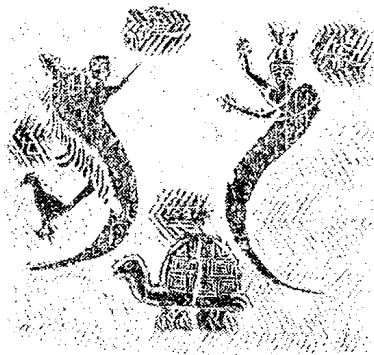


図35

伏羲・女媧



図36

西王母

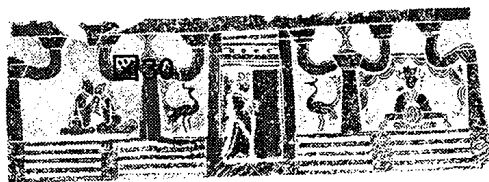


図37

女媧

伏羲



図38

西王母



図39



▲  
西王母と龍虎座

図40

女媧

